

「チャレンジ。前へ！」～すべての那須高原っ子へ～

5月19日(金)校長講話から

学校生活がいいなあと感じる話をこれから4回に分けて話していきますね。まず今日は「ありがとうの心」です。図書室の隣に、ありがとうの気持ちを伝える「ありがとうの木」があるのを知っていますか。「～さんに〇〇してもらいました。ありがとう」「〇〇さん、いつも優しくしてくれてありがとう」などなど、たくさん書いてくれています。

ありがとうと思う気持ちはとても大切です。このありがとうはたくさんあります。例えば、学校が普通に始まるのは教頭先生が誰よりも早く学校に来て準備しているからです。この体育館もそう。誰かが一生懸命に造ってくれたのです。この床も。皆さんが来ている服も。生活していると「普通」に思えてしまうけれども、実は誰かがしてくれているのです。そんな風にありがとうについて考えると、自分の生活は「ありがとう」に包まれていることがわかります。

私は朝の職員室で先生方に「おはようございます」と声を掛けてもらえると、「自分のことをちゃんと見てくれているのだなあ。ありがとう」と思います。先生方はどうでしょうね。ではインタビューしてみましょう。

Q:教頭先生はどんなときにありがとうって思いますか？

A:朝、皆さんの元気な姿を見るたびに「元気に学校に来てくれてありがとう」って思います。

Q:藤田先生は、どうですか？

A:これまで私を教導してくれた恩師の先生方に「ありがとう」って思います。今も元気でやっていますという気持ちも込めてです。

「普通」にある生活は、誰かがどこかで支えてくれているものです。第1回目は「ありがとうの心」についてお話ししました。次の話もお楽しみに。



ウェルビーイング。これは Well(良い)Being(状態)が合わさった言葉です。「幸せだなあ」と感じる方法は、自分から作りだせるものと考え、校長講話時に「ありがとう」の心「ありのままに」の心「なんとかなる」の心「やってみよう」の心について話をしていきます。先生方の体験や経験もインタビューしながら4つの心について進めていきます。皆さんにもお話しできる機会があるといいですね。

スポーツフェスティバルに向けて

5月31日(水)に向けて学年競技や演技の練習や全体練習が始まりました。スポーツフェスティバルは自己有用感を高めてくれる行事です。自己有用感とは「自分は何かの役に立っている」「自分には居場所がある」という意識です。高学年は主に「様々な役割を先生たちと一緒にやり成功させようとする気持ち」低学年や中学年は主に「クラスのみならず一緒にがんばっていききたいという気持ち」を醸成していきたいと思います。日程や駐車場については、ホームページの「お知らせ1」にアップしてあります。どうぞ皆さん、お子さんの一生懸命な姿をぜひ見に来てください。

